

(トップページ: <http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(GDP (IMF WEO) : <http://mylibrary.maeda1.jp/GDP.html>)

(MENA・イスラム圏: <http://mylibrary.maeda1.jp/MenaOicCountries.html>)

マイライブラリー:0531

(注)本稿は 2021 年 4 月 25 日から 5 月 3 日まで 5 回に分けて「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2021.5.5

前田 高行

高い今年の成長率は昨年の反動:IMF 世界経済見通し 2021 年 4 月版

目次	頁
1. 2020/21 年の GDP 成長率	1
2. 前回(2020 年 4 月)と今回(2020 年 10 月)の比較	3
3. 2020年の世界及び主要国の GDP (Current Price)	4
4. 世界および主要地域・国の GDP 成長率の推移(2017~2021年)	5

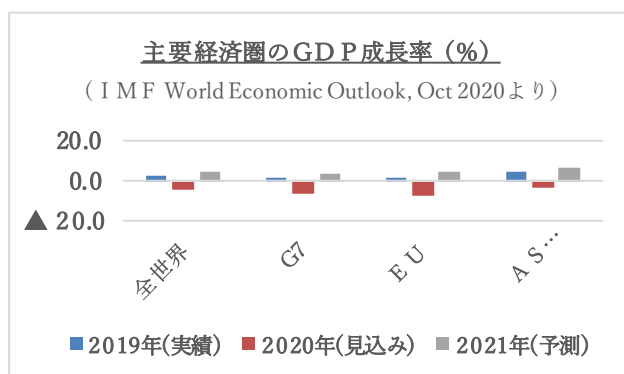
IMF(国際通貨基金)では毎年 4 月および 10 月に世界各国の経済見通し「World Economic Outlook Database (WEO)」を発表しており、今年 4 月版(以下 WEO2021Aprtr)がインターネット上に公開された。

<https://www.imf.org/en/Publications/WEO/Issues/2021/03/23/world-economic-outlook-april-2021>

ここでは 2018 年から 2022 年(予測)までの GDP(current price, ドル建て)を取り上げ、成長率については前回 2021 年 10 月版(以下 WEO2021Oct)¹と比較して世界と MENA 主要国の経済状況の変化を検証する。

(昨年の反動で軒並み高い成長率、来年は通常の成長ペースに！)

1. 2021/22 年の GDP 成長率(末尾表 1-B-2-08 参照)



(1)全世界及び主要経済圏の GDP 成長率
IMF は今年(2021 年)の世界の GDP 成長率を 6.0%と見込んでいる。次項に述べる通り昨年 10 月版では今年の成長率は +5.2%と予測していた。昨年は新型コロナウイルスにより世界経済がマヒ状態に陥ったが、今年は昨年のマイナス成長を克服して回復軌道に入ると見られる。

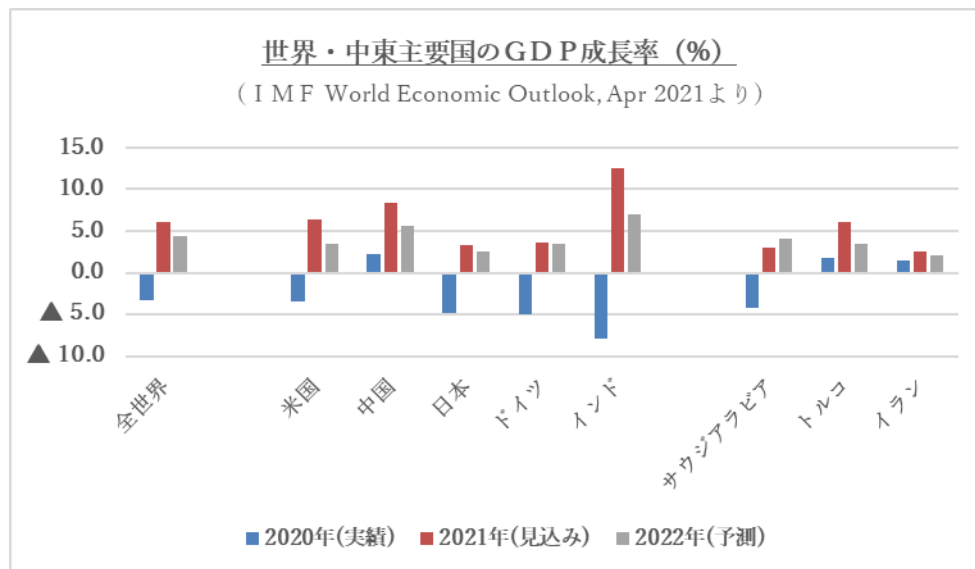
経済圏毎に見ると主要先進 7 カ国 (G7) が 5.4%、EU は 4.4%とされ、開発途上国の ASEAN5 カ国は 4.9%、中東・中央アジアは 3.7%とされている。これらの経済圏はいずれも世界平均の 6.0%を下回っている。これは先進国、ASEAN5 あるいは中東・中央アジア以外のアフリカ、南米などの開発途上国の昨年の成長率の落ち込みが特に激しく、今年はその反動としてかなり高い成長率を達成すると見込んだ結果であろう。

来年(2022 年)は全世界の成長率は 4.4%のプラスになると予測している。この数値は今年の 6.0%を▲1.6%下回っているが、昨年 10 月の 2022 年推定値 4.2%とほぼ同じであり、IMF は来年は通常の成長軌道に戻ると見ているようである。

G7 及び EU の来年の成長率はそれぞれ 3.6%及び 3.9%であり、また ASEAN5 は 6.1%と見込んでいる。G7 及び EU は全世界平均(4.4%)より低く、ASEAN5 が高いのはこれまでの傾向と同じであり、アジアが世界の成長センターとして再び世界経済をけん引すると予測している。

(高成長が際立つ中国とインド！)

(2)主要国の GDP 成長率



世界及び中東主要国の昨年から来年まで 3 年間の成長率を見ると、まず目につくのはほとんどの国はこの 3 年間の成長率に著しい変動が見られることである。即ち、昨年のマイナス成長の反動で今年は高い成長率が見込まれ、来年はそれが通常のペースに戻ると予測している。

日本は昨年の▲4.8%のマイナス成長から今年はプラス 3.3%に変わり、来年はプラス 2.5%に落ち着くと IMF は予測している。後述する通り 2018 及び 19 年の日本の成長率は 0.6%及び 0.3%といずれも 1%以下であり先進国の中でも比較的低い伸びにとどまっている。今年は昨年の反動で成長率が高めになると見込んでいるが、新型コロナウイルスは終息の兆しが見えず昨年のマイナス成長を跳ね返して 3%台の成長が確保できるのか、さらに来年についても経済が常態を戻り 2.5%の成長が期待できるのかは予断を許さないであろう。

米国の場合、昨年実績は▲3.5%であったが、今年は一気に6.4%の成長を達成し2年間で10%近い大きな変動が見込まれている。また来年も3.5%の成長が予測されている。米国はバイデン新政権が総額1.9兆ドルの巨額の景気刺激策を発動しており、景気がV字回復して今年と来年はかなりの経済成長が見込まれる。

一昨年まで高度成長を続けてきた中国は、コロナウィルス禍を早期に押さえ込み、昨年の成長率もGDP大国の中で唯一2.3%のプラス成長を達成している。そして今年及び来年の成長率はそれぞれ+8.4%、+5.6%と予測されている。今年1-3月は昨年同期比18.3%の高い成長率を達成していることを勘案するとIMFが見込む成長率を実現することは難しくなさそうである。

インドはここで取り上げた国の中では3年間の経済成長率の振幅が最も激しく、昨年は▲8.0%のマイナス、今年は12.5%の高度成長、そして来年も6.9%の成長が予測されており、昨年と今年のプラス・マイナスの差は20%を超えている。但し最近のインドはコロナ禍が拡大する様相を見せており、今年二桁成長を達成できるか多少問題含みである。

MENAの主要国の3か年の成長率は、サウジアラビアが▲4.1%(昨年)→2.9%(今年)→4.0%(来年)であり、トルコは1.8%(昨年)→6.0%→3.5%、イラン1.5%(昨年)→2.5%→2.1%である。サウジアラビアを除きトルコ及びイランは共に3か年を通じてプラス成長が続くと予測されている。イランの場合、今年から来年にかけては米国の経済制裁がどの程度解除されるかが経済成長のカギを握るものと思われる。

(今年も来年も上方修正された全世界とG7!)

2. 前回(2020年10月)と今回(2021年4月)の比較(末尾表1-B-2-08参照)

(1) 世界および主要経済圏の比較

上述のとおり今回(WEO2021Apr)の全世界の成長率見通しは今年(2021年)が6.0%、来年(2022年)は4.4%である。これに対して前回(WEO2020Oct)の見通しでは両年の成長率はそれぞれ5.2%、4.2%であり、本年、来年ともに若干上方修正されている。昨年来のコロナ禍の影響が治まると予測しているようである。

2021年の見通しについて主要経済圏を前回と比較すると、G7は前回の3.8%から今回は5.4%に上向いている。その他の経済圏についてはEU(5.0%→4.4%)、ASEAN-5(6.2%→4.9%)は下方修正され、中東・中央アジア(3.0%→3.7%)は上方修正されている。

また来年(2022年)のGDP成長率の見通しについて前回と今回を比較すると、全世界の成長率は前回の4.2%から4.4%に上方修正されている。主要経済圏ではG7(2.8%→3.6%)、EU(3.3%→3.9%)、ASEAN-5(5.7%→6.1%)の各経済圏はいずれも上方修正されているが、逆に中東・中央アジアは4.0%→3.8%と成長率が▲0.2%とわずかではあるが鈍化すると推測している。

(2) 主要国の比較

今年の成長率については米国が前回(2020Oct)の 3.1%から今回(2021Apr)は 6.4%、インドは 8.8%から 12.5%にそれぞれ 3%以上大幅に上方修正されている。その他多くの国も中国(8.2%→8.4%)、日本(2.3%→3.3%)、ロシア(2.8%→3.8%)、韓国(2.9%→3.6%)など成長率が上向きに修正された国が多い。このような中でドイツ(4.2%→3.6%)及び英国(5.9%→5.3%)のヨーロッパ2カ国は成長率が鈍化すると予測されている。

また中東の主要国の今年の成長率の見直しは以下のとおりであるが、上方修正と下方修正が混在している。

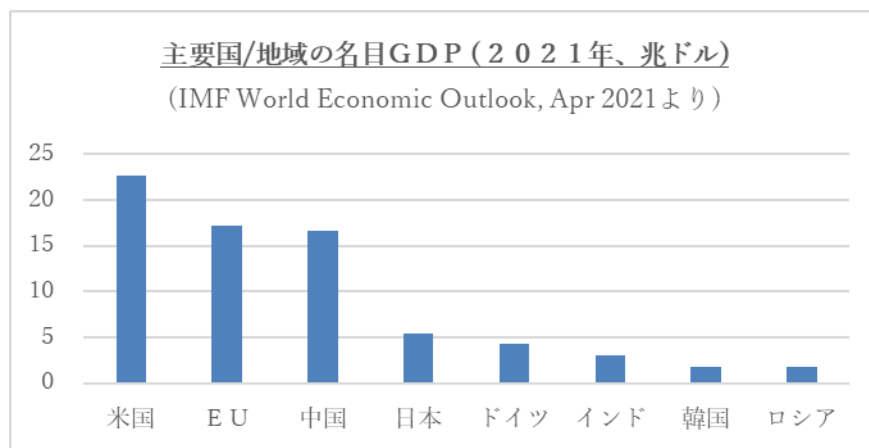
サウジアラビア(3.1%→2.9%)、トルコ(5.0%→6.0%)、UAE(1.3%→3.1%)、イラン(3.2%→2.5%)、イスラエル(4.9%→5.0%)、エジプト(2.8%→2.5%)、イラク(2.5%→1.1%)

2022 年の成長率予測も硬軟入り乱れており、強気に上方修正されたのは英国(3.2%→5.1%)、ロシア(2.3%→3.8%)、日本(1.7%→2.5%)などであり、下方修正されているのはインド(8.0%→6.9%)、韓国(3.1%→2.8%)などである。

中東諸国についても同様であり、サウジアラビア(3.4%→4.0%)、UAE(2.2%→2.6%)、イラン(1.5%→2.1%)、エジプト(5.0%→5.7%)、イラク(3.1%→4.4%)の各国は上向きに修正され、イスラエル(4.6%→4.3%)及びトルコ(4.0%→3.5%)は下向きに見直されている。

(米国と中国の二カ国で全世界の GDP の 42%！)

3. 2021年の世界及び主要国の GDP (Current Price)(末尾表 1-B-2-09 & 1-B-2-12 参照)



IMFによれば今年の世界のGDP(at Current Price)総額は94兆ドルの見込みである。このうちG7は42兆ドルで全体の45%を占め圧倒的な存在感を示している。EUのGDP総額は17兆ドル(全世界の18%)、ASEAN5か国は3兆ドル(同3%)である。

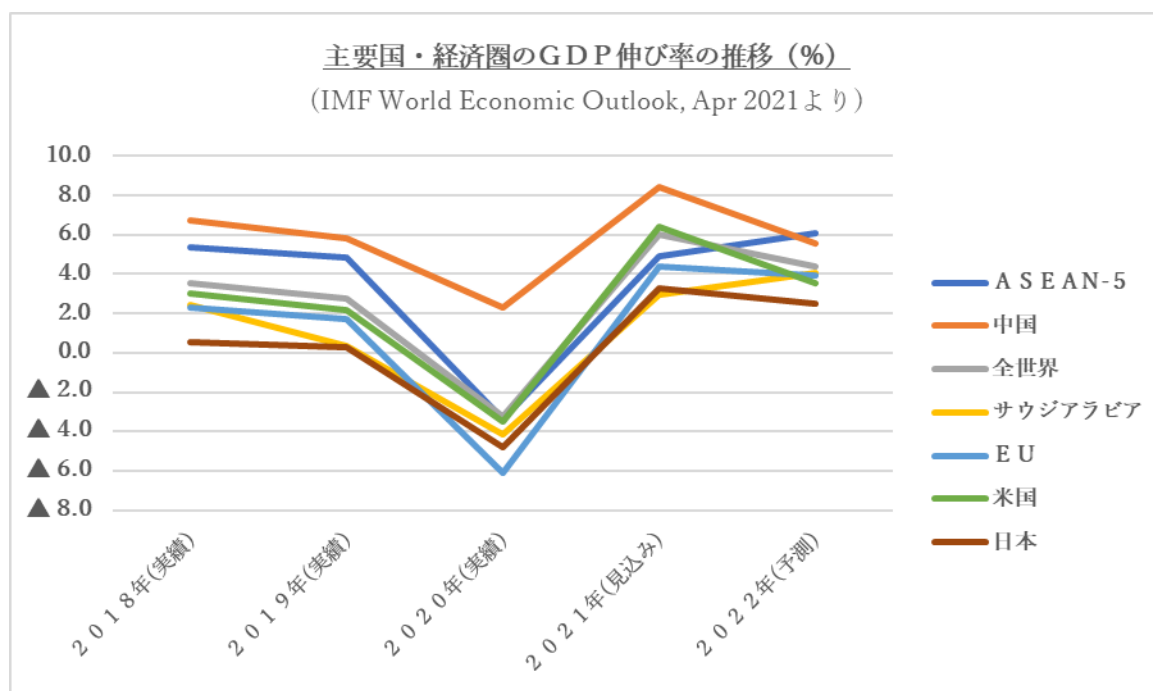
国別では2021年のGDPの世界ベストテンは米国が世界トップ(23兆ドル)で全世界に占める割合は24%、同国一国だけで世界のGDPの4分の1を生み出している。米国に次ぐGDP大国は中国の17兆ドルであり世界全体の18%を占めている。この2か国が世界で突出しており、今後米中

間の経済摩擦が一層激しくなることは間違いないであろう。因みに EU の GDP は17兆ドルであり中国とほぼ同じである。

第3位は日本(5.4兆ドル)でこれに次ぐ世界第4位はドイツ(4.3兆ドル)である。日本の GDP は米国の4分の1あるいは中国の3分の1にとどまっている。第5、6位は英国(3.13兆ドル)及びインド(3.05兆ドル)であり、7位から10位はフランス(2.9兆ドル)、イタリア(2.1兆ドル)、カナダ(1.9兆ドル)、韓国(1.8兆ドル)の各国である。

11位から20位まではロシア、オーストラリア、ブラジル、スペイン、メキシコ、インドネシア、オランダ、スイス、サウジアラビア及びトルコの各国である。中東諸国ではサウジアラビアとトルコがそれぞれ世界19位と20位にランク付けされているが、このほかの中東諸国で世界上位に入っているのはイラン(世界22位)、イスラエル(同30位)、UAE(同34位)、エジプト(同35位)の各国である。

4. 世界および主要地域・国の GDP 成長率の推移(2018~2022年)(末尾表 1-B-2-11 参照)



(大きく落ち込んだ2020年！)

(1) 世界および主要経済圏

世界全体の成長率は2018年、2019年と3%前後で推移していたが、2020年は▲3.3%に急落した。今年は昨年の反動で6.0%の高い成長を達成、2022年の成長率は4.4%と予測されている。

経済圏別に見ると G7 の成長率は2019年まで2%前後の成長を続けたのち、昨年は世界平均を超える▲5.0%のマイナス成長となり、今年は5.4%に回復、来年も3.6%のプラス成長が予測されている。EU は2018年の成長率が2.3%であったが、2020年は新型コロナウイルスの影響で世界平均の2倍近い▲6.1%の大幅な落ち込みであった。その後今年及び来年は4%前後の

プラス成長になる見込みである。

ASEAN-5か国は他の経済圏に比べ高い成長率を達成している。同地域は2018年及び19年は世界平均を上回る5%前後の成長率を維持しており、2020年は他の地域と同様コロナウィルスの影響を免れないものの G7 あるいは EU の落ち込み幅より低い▲3.4%のマイナス成長であった。そして今年4.9%、来年は6.1%のプラス成長が見込まれている。また中東・中央アジア地域の成長率は2018年 2.0%、2019年 1.4%の低い成長率にとどまっており、昨年の▲2.9%のマイナス成長を経て今年及び来年は3.7%、3.8%のプラス成長が予測されている。

(5年間を通じてプラス成長を達成する中国！)

(2)世界と中東の主要国

日本の2018年、19年の成長率は0.6%及び0.3%の低い成長率にとどまった。2020年は世界平均を上回る▲4.8%の大幅なマイナス成長になり、2021年には一転して5年間で最も高い3.3%の成長が予測されている。これは世界平均の6.0%あるいはG7の5.4%に比べて低いが、過去の実績を勘案するとなおハードルは高そうである。

米国の経済は先進国の中では好調であり、2020年は▲3.5%に落ち込んでいるが、今年6.4%、来年は3.5%の成長が見込まれている。

中国は2018年以前から世界でも飛びぬけた成長を誇っており、ほぼすべての国がマイナス成長に陥った2020年もGDP成長率はプラスであり、2018年以降連続してプラス成長を続ける数少ない国である。因みに同国のGDP成長率は6.7%('18年)→5.8%('19年)→2.3%('20年)→8.4%('21年)→5.6%('22年)である。

近年中国と高度成長を競い合っているインドのGDP成長率は、2018年以降2022年まで6.5%→4.0%→▲8.0%→12.5%→6.9%である。昨年(2020年)は世界平均を大幅に上回るマイナス成長であったが、今年(2021年)は二桁成長、来年も中国を上回る成長が予測されている。

中東の主要国を見ると、GDPが世界19位、中東で最大のサウジアラビアは2018年には2.4%と世界平均を下回る成長率であった。その後2019年は0.3%に低下、さらに2020年には▲4.1%のマイナス成長に陥っている。今年プラス2.9%に回復、来年も4.0%の成長が予測されているが、この5年間の成長率はいずれも世界平均を下回っている。

サウジアラビアに次ぐGDP大国のトルコはコロナ禍に見舞われほとんどの国がマイナス成長に陥った昨年もプラス成長(1.8%)を達成、中国とともに5年間を通じてプラス成長を維持している。イランのGDP成長率は米国の経済制裁の影響を受け、18年▲6.0%、19年▲6.8%と大幅なマイナス成長となったが、昨年以降はプラス成長である。但し成長率は2%前後と他国に比べ低いままである。エジプトの成長率の推移は5.3%(18年)→5.6%(19年)→3.6%(20年)→2.5%

(21年)→5.7%(22年)であり安定した成長が続くと見込まれている。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maedat@r6.dion.ne.jp

MENAと世界主要国の GDP 実質成長率(2021-22年)

国名	2021年4月見通し(今回)			2020年10月見通し(前回)		前回/今回比較	
	2021年 成長率 (%)	2022年 成長率 (%)	増減	2021年 成長率 (%)	2022年 成長率 (%)	2021年 成長率 (%)	2022年 成長率 (%)
全世界	6.0	4.4	▲ 1.6	5.2	4.2	0.9	0.2
G7	5.4	3.6	▲ 1.8	3.8	2.8	1.6	0.8
EU	4.4	3.9	▲ 0.4	5.0	3.3	▲ 0.7	0.6
ASEAN-5	4.9	6.1	1.2	6.2	5.7	▲ 1.3	0.4
中東・中央アジア	3.7	3.8	0.1	3.0	4.0	0.7	▲ 0.2
米国	6.4	3.5	▲ 2.9	3.1	2.9	3.3	0.6
中国	8.4	5.6	▲ 2.9	8.2	5.8	0.2	▲ 0.2
日本	3.3	2.5	▲ 0.7	2.3	1.7	0.9	0.9
ドイツ	3.6	3.4	▲ 0.2	4.2	3.1	▲ 0.6	0.4
英国	5.3	5.1	▲ 0.3	5.9	3.2	▲ 0.6	1.9
インド	12.5	6.9	▲ 5.6	8.8	8.0	3.7	▲ 1.1
韓国	3.6	2.8	▲ 0.8	2.9	3.1	0.7	▲ 0.3
ロシア	3.8	3.8	▲ 0.0	2.8	2.3	0.9	1.4
サウジアラビア	2.9	4.0	1.1	3.1	3.4	▲ 0.2	0.6
トルコ	6.0	3.5	▲ 2.5	5.0	4.0	1.0	▲ 0.5
UAE	3.1	2.6	▲ 0.5	1.3	2.2	1.7	0.4
イラン	2.5	2.1	▲ 0.4	3.2	1.5	▲ 0.6	0.6
イスラエル	5.0	4.3	▲ 0.7	4.9	4.6	0.1	▲ 0.3
エジプト	2.5	5.7	3.2	2.8	5.0	▲ 0.3	0.7
イラク	1.1	4.4	3.3	2.5	3.1	▲ 1.4	1.3

2021年 GDP at Current Price(2021年4月値)

(単位:10億ドル)

国名	2020年	2021年	%	増減	増減率(%)
全世界	84,538	93,864	100.0%	9,326	11.0%
G7	38,623	42,425	45.2%	3,803	9.8%
EU	15,168	17,128	18.2%	1,960	12.9%
ASEAN-5	2,603	2,842	3.0%	239	9.2%
米国	20,933	22,675	24.2%	1,743	8.3%
中国	14,723	16,642	17.7%	1,919	13.0%
日本	5,049	5,378	5.7%	329	2.2%
ドイツ	3,803	4,319	4.6%	516	10.2%
英国	2,711	3,125	3.3%	414	10.9%
インド	2,709	3,050	3.2%	341	12.6%
韓国	1,631	1,807	1.9%	176	6.5%
ロシア	1,474	1,711	1.8%	237	14.5%
サウジアラビア	701	805	0.9%	103	7.0%
トルコ	720	795	0.8%	75	10.7%
UAE	354	402	0.4%	47	6.6%
イラン	636	683	0.7%	47	13.3%
イスラエル	403	447	0.5%	44	6.9%
エジプト	362	394	0.4%	32	8.1%
イラク	172	191	0.2%	19	5.1%

世界上位 20 カ国と中東主要国の GDP (2021 年、at current price)

G7	G20	順位		10 億ドル	%	累計
*	*	1	米国	22,675	24.2%	
	*	2	中国	16,642	17.7%	41.9%
*	*	3	日本	5,378	5.7%	
*	*	4	ドイツ	4,319	4.6%	52.2%
*	*	5	英国	3,125	3.3%	
	*	6	インド	3,050	3.2%	
*	*	7	フランス	2,938	3.1%	
*	*	8	イタリア	2,106	2.2%	
*	*	9	カナダ	1,883	2.0%	
	*	10	韓国	1,807	1.9%	68.1%
	*	11	ロシア	1,711	1.8%	
	*	12	オーストラリア	1,618	1.7%	
	*	13	ブラジル	1,492	1.6%	
		14	スペイン	1,462	1.6%	
	*	15	メキシコ	1,192	1.3%	
	*	16	インドネシア	1,159	1.2%	
		17	オランダ	1,013	1.1%	
		18	スイス	825	0.9%	
	*	19	サウジアラビア	805	0.9%	
	*	20	トルコ	795	0.8%	39.1%
		21	台湾	759	0.8%	
		22	イラン	683	0.7%	
		30	イスラエル	447	0.5%	
	*	32	アルゼンチン	418	0.4%	
		34	UAE	402		
		35	エジプト	394	0.4%	
	*	42	南アフリカ	330	0.4%	
		52	イラク	191	0.2%	
		55	カタール	166	0.2%	
		58	クウェイト	127	0.1%	
		72	オマーン	74	0.1%	
			全世界	93,864	100.0%	
	*		(EU)	17,128	18.2%	
			(G7)	42,425	45.2%	
			(G20)	73,443	78.2%	

GDP 対前年伸び率(%、2021年4月値)

国名	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
全世界	3.6	2.8	▲ 3.3	6.0	4.4
G7	2.1	1.5	▲ 5.0	5.4	3.6
EU	2.3	1.7	▲ 6.1	4.4	3.9
ASEAN-5	5.3	4.8	▲ 3.4	4.9	6.1
中東・中央アジア	2.0	1.4	▲ 2.9	3.7	3.8
米国	3.0	2.2	▲ 3.5	6.4	3.5
中国	6.7	5.8	2.3	8.4	5.6
日本	0.6	0.3	▲ 4.8	3.3	2.5
ドイツ	1.3	0.6	▲ 4.9	3.6	3.4
英国	1.3	1.4	▲ 9.9	5.3	5.1
インド	6.5	4.0	▲ 8.0	12.5	6.9
韓国	2.9	2.0	▲ 1.0	3.6	2.8
ロシア	2.8	2.0	▲ 3.1	3.8	3.8
サウジアラビア	2.4	0.3	▲ 4.1	2.9	4.0
トルコ	3.0	0.9	1.8	6.0	3.5
UAE	1.2	1.7	▲ 5.9	3.1	2.6
イラン	▲ 6.0	▲ 6.8	1.5	2.5	2.1
イスラエル	3.5	3.4	▲ 2.4	5.0	4.3
エジプト	5.3	5.6	3.6	2.5	5.7
イラク	0.8	4.5	▲ 10.9	1.1	4.4

¹ 2020年10月版については下記参照。

<http://mylibrary.maeda1.jp/0516ImfWeoOct2020.pdf>